

福知山市自治基本条例推進委員会

Aグループ 成果報告



令和8年3月18日（水）

提案No. 1

生活実感を入口に、地域のことを「自分事」として考える
きっかけとなる対話の場をつくろう

1 今年度の議論のテーマ

提案1

生活実感を入口に、地域のことを「自分事」として考えるきっかけとなる対話の場をつくろう

そのために

- 地域にどのような「対話の場」があるのか
- どのような課題があるのか
- どのような仕組みが必要なのか

2 生活実感から見える地域の現状

➤ 委員から、次のような意見がありました。

- サロンの参加者は女性が多い
- 男性の参加が少ない
- 担い手の負担が大きい
- 次の担い手が見つからない
- コロナ以降、集まりが減った
- 高齢者の集まりに抵抗を感じる人もいる
- 移動手段がないと参加できない



3 対話の場の現状から見える課題

➤ 議論を整理すると、次のような課題が見えてきました。

① 参加者の偏り

- ・ 女性中心、若者や男性が少ない

② 担い手の負担

- ・ 主催者に負担が集中

③ 集まる場所の減少

- ・ 地域の拠点が減少

④ 世代間の分断

- ・ 中間世代が少ない



4 なぜ、対話の場が必要なのか

対話の場は、

地域を「自分ごと」として考えるきっかけ

対話の場があることで

- 地域の課題を共有できる
- 人と人がつながる
- 新しい活動が生まれる



5 目指す対話の場

➤ 議論のなかで見えてきたのは



気軽に集まれる場

【重要なポイント】

- 楽しく、気軽に参加できる
- 特定の人だけにならない
- 世代を超えて参加できる



6 対話の場をつくるための工夫

➤ 委員から、次のようなアイデアが出ました。

- サロンや地域活動の活用
- 地域の拠点の活用
- 移動サロン
- 食事やイベントをきっかけにした交流（食×学び）

大切なことは

「参加しやすいきっかけ」をつくること



7 対話の場の持続可能性

➤ 持続していくためには

- 担い手の負担を少なくする
- 無理なく、小さく始める
- 地域で役割を分担する
- 「楽しさ」を大切にする



8 Aグループの結論

提案 1

生活実感を入口に、地域のことを「自分事」として考えるきっかけとなる対話の場をつくろう

私たち住民は、

気軽に集まり、話し合える対話の場をつくること

そのためには、

- 地域の既存活動を活用する
- 世代を超えた交流を促す
- 無理なく続けられる仕組みをつくる



9 まとめ

➤ 地域には既に 「人」 「活動」 「場所」

- つなげることで
- 地域を「自分ごと」として考える対話の場を広げていく



「人」「活動」「場所」をつなげて地域を「自分ごと」として考える

対話の場を広げよう!

Thank you

Aグループ

岡野 和樹

谷垣 均

土佐 祐司

仁張 衛

矢野 つる代